

必勝『詩句の理論』重要概念参照シート

知覚篇

音節数の知覚容量の限界 (p. 16, p. 90)

フランス語では、正確な音節数の知覚を直感的かつ間違いなく行うことは、人にもよるが、8音節かそれ以下が限界。

即時記憶能力の限界 (p. 33)

G. Miller (1956) によれば、人間の一連の文字に対する即時記憶はおよそ ± 2 であり、その範囲内であればひと目で構成要素の数を推定することができる。

韻律の数の相対性・同等性の原理 (p. 46)

一つの詩句の音節数や内的規則はそれ自体のみでは認識されず、他との詩句の前後関係から認識される。

音節数の数え方 (p. 63)

音節数の計測は、その持続や強度ではなく、音の出だし (coups) が単位となっている。

算定篇

固定的／可動的な句切れ (p. 77)

9音節以上の詩句の同等性を知覚するには、固定的な句切れが求められるが、可動的な句切れの韻律的有用性については明らかではない。

合計数の韻律的妥当性という前提 (p. 79)

可動的な句切れの捉え方として、詩句内に「休みを与える」発想と、「足し算」的な考え方の2つがあるが、どちらも、詩句全体の音節合計数を前提としている。

分節篇

基礎詩句と付随詩句 (p. 98)

詩作品内で唯一の基準として現れる詩句を基礎詩句 (4-6=4-6) と呼び、単独では用いられず、他の基礎詩句に混ざっている詩句を付随詩句 (4-6=6-4) と呼ぶ。

リズムの両義性 (p. 104-105)

D'où₁ part₂ la₃ stro₄phe ou₅vra₆nt ses₇ ai₈les₉ dans₁₀ les₁₁ cieux₁₂

上の詩句は、6-6でも4-4-4でも読める ((6-6) × (4-4-4))。どちらが正しいかというよりも、韻律的に読むか、統語論的に読むかの違いで、本質的に両義的である。

総合的／分析的リズム分節 (p. 113-115)

6-6は6音節(半句)という下位詩句から「構成」されている総合的リズム分節であり、非構成的な4-4-4は分析的リズム分節である。総合的リズム分節を「+」、分析的リズム分節を「=」で表記すると以下ようになる。

Plus que les peu = ples, plus + que l'as = tre, plus qu l'île

観測篇

同時調音の文脈 (c.c.) (p. 135)

無音の e における同時調音の文脈とは、無音の e 以外で実際に発音される「真の」母音を含んだ最小単位 (形態素、語、連辞) である (同時調音とは、前後の音の関係から音が部分的・全体的に重なり合っ
て発音されることである。)

女性の e / 男性の e (p. 134-135)

無音の e は、c.c. 内に、実際に発音される「真の」母音が後に続けば男性、続かなければ女性となる。
女性の e は連辞・語・形態素の最後に来る。

例) e_1 - e_6 をもった « $Te_1 le_2 re_3 de_4 mande_5 ront$ -elles $_6$? » の場合 (e_5, e_6 のみ女性)

($\overset{e_1}{te} \overset{e_2}{le} (\overset{e_3}{re} \overset{e_4}{demande}) \overset{e_5}{ront}) \overset{e_6}{elles})$

- ・太字下線が真の母音
- ・ e_5 の直後は真の母音だが、形態素 *demande* の c.c. 外なので考慮しない

5 つの観測規準 (p. 137-140)

規準 F

n 番目の音節 (n 番目の母音) が女性であった場合、 F_n と表記。

$Je_1 viens_2 dans_3 son_4 tem_5 ple_6 sup_7 pli_8 er_9 l'É_{10} ter_{11} nel_{12}$ [F6]

※男性音節の場合は、 Em_n と表記。

規準 M

n 番目の母音とその次の母音が同じ単語の男性部分 (連辞・単語・形態素の最終音節が女性であれば、それを除いた部分) であるとき、 M_n と表記。最低でも 2 音節以上の単語で観測され、とりわけ単語の「視覚上の」句またぎの問題に関わる。

$Oui_1, je_2 viens_3 dans_4 son_5 tem_6 ple_7 pri_8 er_9 l'É_{10} ter_{11} nel_{12}$. [M8, M10, M11]

※M6 はありえない。なぜなら、次の母音が F7 で男性ではないからである。

規準 E / 規準 C

n+1 番目の母音が後接語 (Que vois-je の *je* など) で、女性ではないとき、 E_n と表記。また、n 番目の母音が前接語 (冠詞・代名詞・助動詞等) で、支えとなる語が後に続くとき、 C_n と表記。

$Com_1 bien_2 en_3 vou_4 lez_5$ -vous $_6$? [C3, E5]

※この場合、E5 は M5 にもなりうる

(同一単語内で次に続く母音が女性ではないため)

- C3 : *en* という中性代名詞なので前接語。続く *voulez* が支えとなっている。
- E5 : +1 番目の *vous* が後接語でなおかつ女性ではない。

規準 P

n 番目の母音が単音節の前置詞 (*à, chez, contr(e), dans, de, dès, en, entr(e), hors, sans, sous, sur, vers*) で、その補語が後に続くとき P_n と表記。

$lls_1 l'ont_2 dans_3 l'os_4$. [P3]

韻律構成測定法 (メトリコメートル)

規準 F, M, E, C, P の分布を検討する方法。